

## 高校中退経験者のライフストーリーにみる転機の意味づけとキャリア

立命館大学大学院  
応用人間科学研究科  
臨床心理学領域  
飯村 風香

日本の高校中退率は、いわゆる先進諸国の中でも低水準を維持している。高校中退は、ニートやひきこもりにつながりやすく、フリーター、若年無業者等、社会的弱者に至る可能性が高いとの懸念が示されている。そこで、本研究では、高校中退経験を経て現在有職の成人を対象に、①どのようにして高校中退に至り、その後何をどのように選択し、現在の自己やキャリアを形成しているのか、また②何を転機として捉え、自己の変化をもたらした経験として意味づけているのかについて明らかにすることを目的とした。

対象者は、高校中退経験のある20代後半～30代前半の社会人4名であり、ライフストーリー・インタビューを行った。その結果、それぞれのライフコースや転機の意味づけは、非常に個別多様なものであった。就職や結婚など人生の節目となる大きな変化を経験し、現実社会の様々な課題に向き合うことが求められる時期である成人期前期の特徴が強く反映されている。転機は、問われつつ語られることで、ライフストーリーに浮かび上がってくる。また、本研究の語りにおいて、人が自己の人生に矛盾がないように再帰的にこれまでの経験を振り返りながら、さまざまな選択を行っていることが明らかになった。つまり、自身の生活史にある程度の一貫性を与えようとする営みである。